

研究主題
**「主体的・対話的で深い学びを通して
 教科のねらいに迫る授業づくり」**

～国語科「読むこと」の文学的な文章を通して～

第1学年 国語科学習指導案

単元名 そうぞうしたことを、おんどくげきであらわそう

「くじらぐも」

■単元の目標

- ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。(知(1)ク)
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思C(1)カ)

■読むことに関するねらい

構造と内容の把握

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。

精査・解釈

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。

考えの形成

「くじらぐも」の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつ。

共有

「くじらぐも」を読んで感じたことや分かったことをクラスの仲間と共有する。

■児童の実態

文学的文章「はなのみち」「おおきなかぶ」「やくそく」を学んできた1年生である。「はなのみち」では、誰が何を言ったりしたかに気をつけることを学習した。「おおきなかぶ」では、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することを学んだ。「やくそく」では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることを学んだ。

本教材「くじらぐも」は、登場人物に子供達や先生がいたり、授業中の出来事であったりすることから、児童にとって読みながら想像を広げ、自分の生活や経験と比べやすい。登場人物の気持ちや場面の様子について、音読や動作化をさせることで、読み取ったことを確認しながら読み進めていけるようにしたい。

深い学びの視点における登場人物の行動を具体的に想像するために、教科書にある叙述を確認しながら読ませていく。

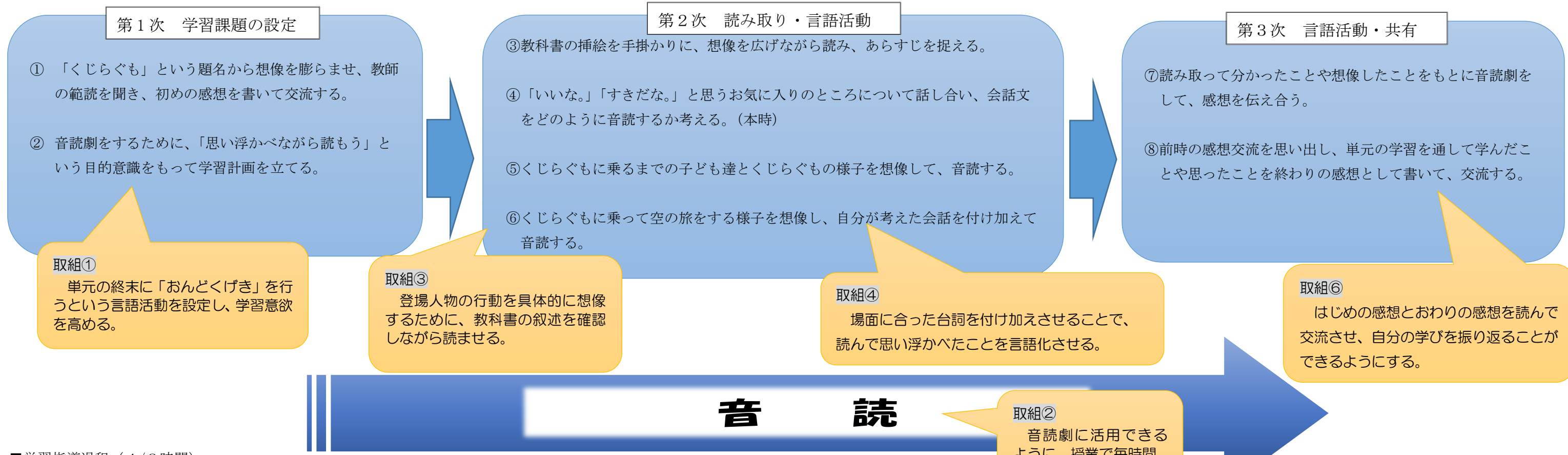
■言語活動

1年生は、文学的文章の読み取りにおいて単元を通した言語活動を設定して学んできた。「はなのみち」では音読発表会、「おおきなかぶ」では音読と動作化、「やくそく」ではペープサート劇の発表交流という言語活動を行い、目的意識と相手意識をもって読みの学習に取り組んできた。

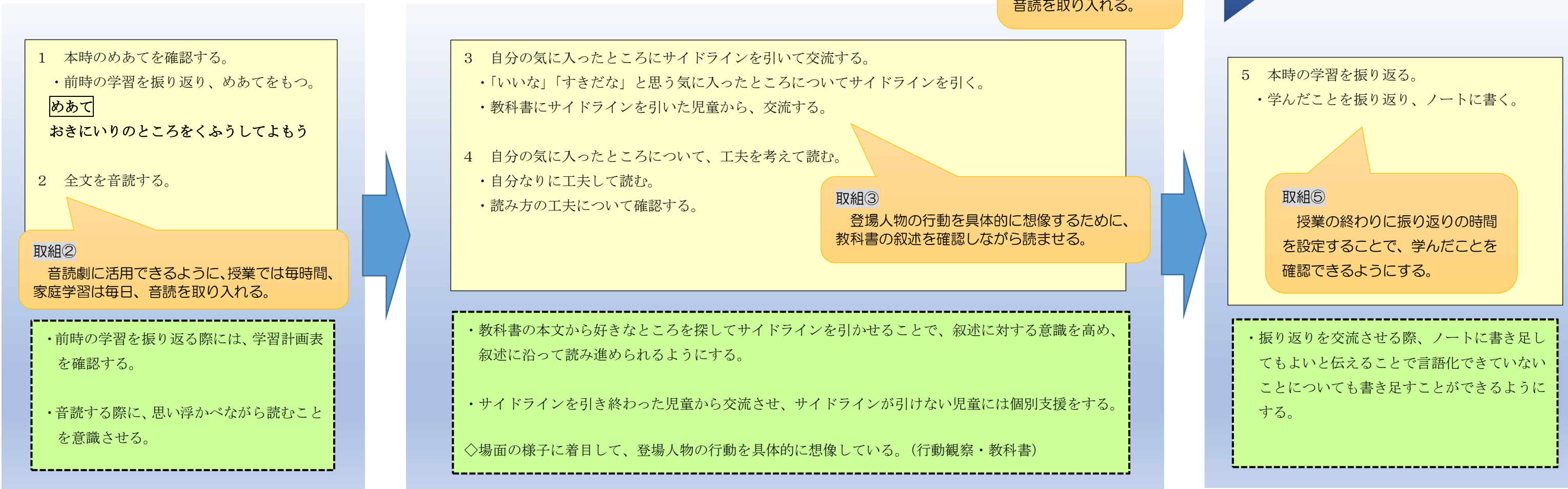
本単元では、まず学習課題の設定をするために、初めの感想を書いて交流し、音読劇に向けて読みの学習計画を立てる。次に内容の大体を捉えながら自分のお気に入りのところを見付ける。そして、場面の様子や登場人物の行動を想像しながら音読をさせる。読み取って分かったことや想像したことをもとに音読劇をして、感想を交流させる。単元を通して学んだことや終わりの感想を書くことで変容を捉えられるようにする。読み取りでは教科書にある叙述から場面の様子を想像する。想像を膨らませて音読する中で、児童から出たつぶやきや動作を本文に付け加えさせていく。

音読という基礎的な技能を鍛えながら、読み取ったことを生かした音読劇をすることで、物語の世界を味わう楽しさを体験できるよう、単元を通した言語活動として設定している。

■単元計画（全8時間）



■学習指導過程（4/8時間）



・・・学習内容と活動

・・・指導、支援

◇ 評価

教師が主体的・対話的で深い学びの視点を明確にもち、児童に三つの資質・能力を育むために授業改善を行っていけば、教科のねらいに迫ることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びの視点

- ① 児童が学習のゴールイメージをもっている。
- ② 児童が友達と必要感をもって対話している。
- ③ 比較・関連付けてより深く理解している。

本時における具体的な児童の姿

- ① 音読劇を行うことを理解し、登場人物の行動や会話に着目しながら学習している。
- ② 音読により、自分が考えたことや理解したことを表現している。

三つの資質・能力を育むための授業改善の取組

《学習計画の工夫》

- ① 単元のはじめに、単元末の言語活動を設定し、学習意欲を高める。
 - ・教師の範読で教材文と出合わせ、児童と相談して言語活動を設定した。
 - ・既習の「おおきなかぶ」を想起させ、同じ言語活動で音読劇をする意欲を高めた。

《具体的な学習活動の想定》

- ② 音読劇に活用できるように、1単位時間の中で毎時間、音読を取り入れる。
 - ・1単位時間の中で、必ず1回以上の全文音読を取り入れた。教材文に親しむとともに、叙述に沿って、思い浮かべながら読みを深め、音読劇の練習にもなるようにした。
- ③ 叙述を確認しながら読ませるために、教科書のページや行を確認する。
 - ・児童の発言の際、「教科書のどこにかいてあったか。」とページや行を確認することで、叙述に沿って読み取りを進めるということを意識付けていく手立てとした。
- ④ 場面に合った台詞を付け加えさせることで、読んで思い浮かべたことを言語化させる。
 - ・何度も思い浮かべながら音読する活動を行う中で、児童が自然と登場人物になりきって読み進めることが予想される。その際、「わぁ!」「やったー!」等の気持ちが声になって漏れ出てくる。その自然な声を台詞として付け加えることで音読劇への意欲を高めることができると考えた。

《振り返りの工夫》

- ⑤ 授業の終わりに振り返りの時間を設定することで、学んだことを確認できるようにする。
 - ・授業の初めにめあて、終わりに振り返りを書かせることで1単位時間における学びを確認できるようにした。
- ⑥ 初めの感想とおわりの感想を交流させ、自分の学びを振り返ることができるようにする。
 - ・単元の導入で「はじめのかんそう」、単元の終末に「おわりのかんそう」を書かせることで児童自身が再構築を実感できるようにし、教師の評価にも役立つと考えた。